

令和8年度 第1回小矢部市総合教育会議 議事録要旨

1 日 時

令和8年6月5日（金）午前11時から午前11時56分まで

2 場 所

小矢部市役所 特別会議室（2階）

3 出席者

桜井市長、沼田教育長、笹島教育長職務代理者、石野教育委員、塚崎教育委員
前田教育委員

4 出席職員

橋本総務部長、橋本教育委員会事務局長、太田教育総務課長、大野文化スポーツ課長、東学校給食課長、佐伯こども家庭課長、高田総務課長、中川教育総務課課長補佐、松田教育総務課課長補佐、細川総務課課長補佐、土永総務課主任

5 傍聴人

なし

6 議 題

令和8年度小矢部市教育委員会重点施策について
小矢部市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

7 会議の概要

- (1) 令和8年度小矢部市教育委員会重点施策について
(橋本教育委員会事務局長が資料に基づき説明)

【委員の主な意見】

塚崎委員：高校生が強盗殺人を行った事件などがあった。命の大切さを学ぶ機会を学校教育だけでなく社会教育の場でも設け、自分の命、他人の命の大切さを特に子供たちには理解させていくことが必要だと思う。

橋本教育委員会事務局長：引き続き情操教育ということで命の大切さを伝えていきたい。

石野委員：弁護士への派遣を受けられることは非常によい取組み。このようなサポートにより教員を目指す方が増えてくれることを期待している。

橋本教育委員会事務局長：教員を目指す方が増えることを期待し、取組みを進めていきたい。

沼田教育長：安易に弁護士につなぐのではなく、これまでどおりまずは誠実に対応しつつ、それでも無理な状況になれば、弁護士を活用するという体制としていきたい。

橋本教育委員会事務局長：スクールロイヤーの対応は、教育的配慮や教育現場の法務アドバイザー的な形で関わっていただき、教員と協議しながら適切に進めていきたい。

桜井市長：タウンミーティングでもこの取り組みはよいと評価いただいた。

笹島委員：中学校にも今年からスタディメイトをつけていただき、ありがたい。小学校との連携も図っていると聞いている。引き続き、しっかりサポートしていただきたい。中学校の部活動の地域展開について、文化芸術活動も加わったと思うが、スポーツだけでなく自分がやりたいことをでき、取り残されることが無い体制を整えていただきたい。

橋本教育委員会事務局長：子供たちが生涯にわたって豊かなスポーツ活動や芸術活動を行うための基盤となる大切な時期であると考えているので、学校を含めた地域全体で子供たちを成長させられる体制づくりを進めていきたい。

前田委員：ふるさと教育について、市の歴史・文化だけでなく、富山県の歴史・文化も学ぶことが重要だと思うが、各種博物館等との連携はどのようになっているのか。日本自動車博物館を石川県の推薦の博物館に入れていただいた。現代では車社会ということもあり、文化的側面を評価いただいたのではないと思うが、富山県では同様な取組みはあるのか。富山県だけでなく隣県の石川県の歴史も含め、ふるさと教育としてはどうか。

橋本教育委員会事務局長：富山県の歴史文化については学んでいると認識しているが、石川県のものまで対応しているかは不明である。

(2) 小矢部市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

(太田教育総務課長が資料に基づき説明)

【委員の主な意見】

塚崎委員：教員の空き時間を確保するのは非常に困難であると考えている。小学校は特に難しいのではないかと。実際にどのように授業時間数を減らすのか、その具体的な方法はあるのか。

太田課長：実際には難しい。教員免許を持った人材の確保などハードルは高い。他市の状況も見て検討していきたいが、空き時間を作ることが子供と向き合う時間を確保するという観点で考えている。

沼田教育長：中学校の場合は、道徳の授業を学年主任が担当したりできるが、小学校は学年主任と担任が一緒なので難しい。

笹島委員：専科の教員の確保など、外部の人材の活用が重要であると考えている。内部の教員の中でのやりくりは難しい。

沼田教育長：勤務時間の削減は難しい。スクールバスは7時20分には来る。子供が来るのに教員がいないわけにはいかない。他市の状況もみて検討しているところ。

笹島委員：元気な教員を増やそうとする市の取り組みはありがたい。元気な先生の姿を見て、私も教員になりたいということになり、教員の確保につながると思う。

笹島委員：登下校の見守り活動を地域にお願いしているが、地域の方に意図が十分伝わっていないという懸念がある。学校での取り組み、市の取り組みが地域の方、子供のいない世帯にも伝わるようにしてほしい。

太田課長：地域の方には文書だけでなく、直接対面をお願いする場を設けるようにしていきたい。周知については、市ホームページも考えられるが、一部の方しか見ていないと思う。学校だよりは市報と一緒に配付されるので、そこでのPRなどを検討したい。

桜井市長：しっかり検討していただきたい。

石野委員：小学校の担当授業数を減らすのは難しいのであれば、教材研究の負担を減らすことを検討してはどうか。1年生を担当し、翌年持ち上がって2年生を担当した後、また1年生を担当すれば、一昨年の教材研究を生かすことができるのではないか。

太田課長：教材研究ができる時間の確保は課題であるので、しっかりと検討していきたい。

(3) その他について

塚崎委員：教員の負担感は、心、気持ちの面が大きく、人によって感じ方が違うと感じる。不満や悩みを話しやすい風通しのよい職場づくりが大事になってきていると思う。子供たちの悩みを聞く時間確保とあったが、教員の話聞く場があり、大げさなものでもなく人間同士の関わりも大事でないかと思う。

太田課長：風通しの良い環境づくりは重要。結果として子供にとってもよい傾向につながると思うのでしっかり取り組んでいきたい。